

## 令和3年度事業報告

公益社団法人日本馬術連盟（日馬連または JEF）は、令和3年3月4日開催の令和2年度第7回定例理事会において承認された令和3年度の事業計画及び収支予算に基づき、以下の事業を実施した。なお、一部については、期中に補正を行った。

令和3年度の特記事項として、新型コロナウイルス感染症の影響で1年延期された東京2020大会が、JRA 馬事公苑において無観客で開催された（オリンピック7月24日～8月7日、パラリンピック8月26日～8月30日）。オリンピック競技大会については、3種目ともこれまで4人で構成していた団体戦が3人構成に変更となったため、障害馬術3人馬、馬場馬術3人馬及び総合馬術(特別ルールによりリザーブへの交代可)4人馬となる合計10人馬が出場した。心配されていた暑さに関しては、競技が行われた夕方から夜の時間帯は気温が下がり、パフォーマンスへの影響もそれほど深刻なものではなかった。障害馬術で福島大輔選手とチャニオン JRA 号が個人6位(1932年の西竹一選手とウラヌス号の金メダル以来の快挙)、総合馬術で戸本一真選手とヴィンシーJRA 号が個人4位(オリンピック総合馬術競技史上日本最高順位)となった。またパラリンピック競技大会は開催国枠により、4人馬が出場した。宮路満英選手が個人戦で7位、フリースタイルで8位と2つの入賞となった。

令和3年度に開催された日本馬術連盟主催の競技会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためすべて無観客で開催された。なお、第76回国民体育大会馬術競技（三重県）と全日本エンデュランス馬術大会2021がそれぞれ中止となった。

各事業については、以下のとおり

### 1. 馬術の普及・振興

#### (1) 馬術に関する情報システムの運営

- ① ウェブサイト及び SNS を運営し、広く一般に各種情報を公開して迅速に広報した。
- ② 会員とのコミュニケーション手段としてウェブサイト・Facebook を活用するとともに月刊機関誌『馬術情報』とリンクし、広報活動の充実を図った。
- ③ 利用者の利便性と業務の円滑化を向上させるべく「日馬連情報システム」を活用し、会員情報、乗馬情報、主催・公認大会の情報等を管理した。

#### (2) 機関誌発行

- ① 紙媒体の特性を生かして情報を的確に伝達し、馬術の振興及び各種記録の保存に資するため『馬術情報』を発行した。

〔発行部数 87,600部（7,300部×12か月）、対前年度比93.6%〕

- ② 『馬術情報』を日馬連会員、関係団体、マスコミ各社に配布するとともに、一般購読者に販売した。
- (3) 馬術関係資料の作成・配布
- 各種規程集及び日馬連で扱う馬術競技の紹介・ルール解説等の資料を作成し、頒布した。
- (4) マーケティング活動
- ① JEF スポンサーとして、オフィシャルサポーター3社（日本航空株式会社・エルメスジャパン株式会社・株式会社AOKI）、オフィシャルサプライヤー1社（デサントジャパン株式会社）、サポーターメンバーク1社（株式会社フロンティアインターナショナル）が就任した。また、JOC「タイアップマーケティングプログラム」を活用した協賛を得ることができた。  
〔前年度はオフィシャルパートナー2社・オフィシャルサポーター4社、オフィシャルサプライヤー1社、サポーターメンバーク1社〕
  - ② パートナーシッププログラムメニューを適切に実施し、それ以外のスポンサーメリットやエルメスオリジナル・スポンサーメニューも実施した。
  - ③ 馬術スペシャルアンバサダー（菅井友香）、馬術アンバサダーライダー（小牧加矢太、高田茉莉亜、佐々紫苑）、馬術応援団（おがわじゅり、横山剣、佐藤藍子）を継続起用した。
- (5) 主催競技会の放映・動画配信
- ① NHKにおける主催競技会のテレビ放映実施に協力した。（Eテレ1回）。
  - ② 主催競技会等の模様をインターネットでライブ配信を19回（他団体主催9回を含む）実施し、多くの人々に馬術の素晴らしさを伝達した。
- (6) 各種表彰
- ① 第32回オリンピック競技大会で入賞した選手2名に名誉総裁表彰を、同大会に出場した選手10名及び出場馬所有者に特別表彰を行った。
  - ② 永年に亘り馬術界に功績のあった4名6頭（功労者4名、地域功労者なし）を表彰した。また、優秀な成績を収めた人馬3名6頭を表彰した。
  - ③ 競技馬の資質向上のための奨励策として、優秀乗馬飼育奨励金を交付した。
  - ④ 競技馬の資源確保、調教技術向上のため内国産馬の活用振興を図り、その奨励策として内国産優秀乗馬飼育奨励金を交付した。なお、今年度については国民体育大会が中止となったため、交付の対象は内国産優秀乗馬表彰受賞馬のみとなった。
  - ⑤ 優秀な成績を収めた内国産馬の所有者・生産者を表彰した。
- (7) NF 活動（National Federation：国内を統括するスポーツ団体）の推進
- ① （公財）日本オリンピック委員会及び（公財）日本スポーツ協会の会議等に積極的に参加した（16回）。

- ② 国際馬術連盟（FEI）及びアジア馬術連盟（AEF）の活動に参画し（国際会議等4回）、日本馬術界の国際的地位向上に努めた。
  - ③ （公財）日本オリンピック委員会主催の「IF 等役員ポスト獲得支援（B タイプ）」説明会に参加、支援金を活用してFEI 総会派遣等を行った。
- （8）馬術基盤の維持拡大
- ① 馬術振興の一翼を担う組成団体に対し、その加盟する団体が所有する馬について、飼育費助成及び優秀乗馬助成を行った。また、都道府県馬術連盟及び組成団体の事業費・事務費の助成を行った。
  - ② 馬事関連団体と連携し、馬術の普及・振興に努めた。
  - ③ ジャパンイヤーとして開催されたアーヘン国際馬術大会（ドイツ）にイベント企画から参画、オープニングセレモニーではスポーツ流鎧馬のデモンストレーションや和楽器の演奏、現地日本人学校による日本文化の披露等、大会を通じて世界の馬術関係者に日本の魅力を紹介した。また、同様にジャパンイヤーとして開催されたハーゲン国際馬術大会（ドイツ）においては、無観客開催となったため来場者向けのイベント等は行えなかったが、ソーシャルメディア等を通じて広報活動を行った。
  - ④ 国内の乗用馬生産団体に対して必要な助言を行うとともに、内国産馬限定競技を主催大会に組み入れ、内国産馬活用促進のための事業を行った（第73回全日本障害馬術大会2021Part II 内国産障害飛越競技・第73回全日本馬場馬術大会2021Part II 内国産選手権、内国産 S クラス、内国産 M クラス、内国産 L クラス）。
  - ⑤ JRA 馬事公苑整備工事期間中に安定的に各種大会が開催されるよう「各種馬術競技会開催等支援事業」を8主催者18競技大会について支援を行った（内7競技大会は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止）。併せて、従前同様競技会への参加活動が行えるよう、関東学生馬術協会加盟馬術部への活動支援を行った。また、馬の多様な利活用に取り組む全国の大学馬術部を対象に、活動支援を行った。さらに、学生馬術競技会等に出場するための馬輸送費の一部補助等、全国の大学馬術部を対象として、全日本学生馬術連盟を通じて活動支援を行った（JRA 特別振興資金事業）。
- （9）ガバナンスの向上
- ① ガバナンスコードへの対応は、中央競技団体ガバナンスミーティング及びスポーツ団体ガバナンスコードの遵守に向けた課題に関するヒアリングに出席し、ガバナンスコードの遵守状況を日本馬術連盟公式サイトに掲出した。また、掲出について（公財）日本スポーツ協会及び（公財）日本オリンピック委員会に報告した。
  - ② 選手及び関係者のインテグリティ（誠実さ、真摯さ、高潔さ）に関する意識

向上促進のため、JOC セミナー・プログラムに5回23名が参加した。

## 2. 会員と乗馬の登録

### (1) 会員登録

選手、指導者及び団体の活動をサポートするため、会員（6,759：個人6,099、県馬連所属団体402、組成団体所属団体258）の登録を行った。

〔前年度 会員6,651：個人6,011、県馬連所属団体387、組成団体所属団体253〕

### (2) 乗馬登録

乗馬の個人情報（識別、成績、所有者）を登録管理して、競技の公正確保と防疫体制の確立を図り、乗馬（3,843）の登録を行った。

### (3) FEI 登録事務

FEI 公認競技会に参加する人馬（選手 120名、馬匹 133頭）及び競技役員の FEI 登録事務を行った。

### (4) 登録事務の合理化

「日馬連情報システム」をさらに活用し、登録事務の合理化を図った。

## 3. 競技会規程の制定及び各種資格の認定

### (1) 競技会規程の制定・整備

JEF の各種規程の制定及び改廃を行った。また FEI 各種規程の制定・改廃に対応して、国内規程を改正し、FEI 競技規程の国内適用を図った。

### (2) 競技役員資格

- ① 競技役員の資格認定・更新・昇格及び技術向上のため講習会・認定試験を実施（10回）するとともに都道府県等が開催する講習会を公認（12回）した。また、コースデザイナー講習会（2回）を実施した。
- ② 講習会の内容の統一のため、講師の研修会を開催（1回）した。
- ③ 国際競技役員を養成するため、馬場審判員（1名）の欧州研修を支援した。また、馬場審判員の技術の向上を図るべく WEB を利用した海外講師によるワークショップを開催（1回）した。国内での FEI 公認の講習会・研修会は新型コロナウイルス感染症拡大のため実施できなかった。

### (3) 指導者資格

#### ① 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者

（公財）日本スポーツ協会が制定する公認スポーツ指導者制度に基づく統一カリキュラムに則り、国民体育大会馬術競技の監督候補者等を対象とするコーチ3及び少年団・高校・大学馬術部あるいは馬術クラブにおいて馬術競技の基礎的実技指導にあたる指導者を養成するコーチ1を日馬連が養成し、資格の認定

を行った（2回）。また、これとあわせて指導者資格・更新復活講習会を開催（1回）した。

② 日本馬術連盟認定指導員

馬術指導者の資格認定・更新及び専門知識習得と資質向上のため、日馬連独自のカリキュラムに則って講習を行い、検定試験を実施して資格を付与した（1回）。

（4）選手の資格認定

騎乗者資格について、主催・公認競技会及び国際競技会参加のための騎乗者の技術レベルを判定し、認定・登録を行った（A級27名、B級471名、EC級6名、C級79名）。また、都道府県等が開催する騎乗者資格認定のための審査会（B級25回、C級28回）を規程に基づいて公認した。

（5）競技会の公認

会員が主催する競技会を日馬連が公認し、併せて日馬連が指名する者が審判長を担当することにより、競技の安全と公正を推進した（障害99、馬場66、総合4、エンデュランス8：合計177）。また、公認競技会のオンライン申請については4月の本格運用開始以降も順調に稼働している。

4. 選手の強化

（1）選手強化対策

① 騎乗・調教技術の向上を図るため、国内において総合馬術の強化訓練・合宿等を5回実施した。

② 優秀な成績を挙げた選手をナショナルチームメンバーに認定した（障害21人馬・プログレス22名・プログレスジュニア25名、馬場9人馬・プログレス35名・プログレスジュニア23名、総合15人馬・プログレス13名・プログレスジュニア16名）。

（2）ジュニア育成

国際レベルの選手を育成するため、ジュニア層の発掘及び強化のため、講習会を開催（8回）するとともに、総合馬術プログレスチームについては国内強化合宿（1回）を行った。さらに国内・海外の強化合宿等を開催する予定（総合1回、障害3回、馬場2回）にしていたが、すべて新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施できなかった。

（3）ナショナルトレーニングセンター（NTC）の活用

① ナショナルトレーニングセンター中核拠点施設馬術競技強化拠点としてスポーツ庁の指定を受けた御殿場市馬術・スポーツセンターを競技力強化に活用した（19回80日）。

- ② 医科学サポートに関わるデータ収集として、「馬術における騎乗者と馬の動作解析（張力測定・筋電図測定）」を実施した。

## 5. 競技会の開催

### (1) 競技会の開催

馬術競技を志すすべての選手の目標として、各種目・各レベルの年度チャンピオンを決定する以下の全日本馬術大会を開催（全日本エンデュランスについては北海道庁から出された道外（都府県）から本大会に参加する馬に係る《輸移入家畜の着地検査要領》の実施要請に対応が間に合わず中止）した。

日程	大会名	開催場所
5月28～30日	第42回全日本ヤング総合馬術大会2021	山梨県馬術競技場
6月5～6日	第73回全日本馬場馬術大会2021 Part II	御殿場市馬術・スポーツセンター
8月19～22日	第45回全日本ジュニア障害馬術大会2021	山梨県馬術競技場
8月27～29日	第42回全日本ジュニア総合馬術大会2021	山梨県馬術競技場
9月18～19日	第22回全日本エンデュランス馬術大会2021 (中止)	北海道鹿追町ライディングパークを発着とする特設コース
10月22～24日	第51回全日本総合馬術大会2021	山梨県馬術競技場
11月13～14日	第38回全日本ジュニア馬場馬術大会2021	御殿場市馬術・スポーツセンター
11月18～21日	第73回全日本障害馬術大会2021 Part I	三木ホースランドパーク
12月10～12日	第73回全日本馬場馬術大会2021 Part I	御殿場市馬術・スポーツセンター
1月13～16日	第73回全日本障害馬術大会2021 Part II	三木ホースランドパーク

また、全国で開催される公認競技会を全日本大会の予選とすることにより全国規模の馬術の振興を図った。

さらに、会員増加策の一環として、主催大会においてより多くの会員が参加できるような種目を実施できないかについての検討を行った。

### (2) 競技会の共催

全国レベルでの技能向上の機会である第76回国民体育大会馬術競技(三重県)は(公財)日本スポーツ協会及び文部科学省他の団体とともに主催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止になった。

### (3) FEI 公認競技会

- ① 主要国際大会出場資格取得ならびに国際レベルの選手層の拡大を目的として、FEI 公認競技会（国際総合馬術大会）を4大会実施した。
- ② 会員団体が主催する FEI 公認競技会7大会（障害7）の開催を支援した。

### (4) ドーピングの防止

- ① 主催競技会及び FEI 公認競技会において馬のドーピング検査を実施（9回）した。
- ② （公財）日本アンチ・ドーピング機構と協力して9名に検査を実施し、全員陰性であった。また、ドーピング防止に関する講習会を3回実施し、競技者のドーピング防止に関する知識を広めた。

## 6. 国際競技会への派遣

- (1) 国際競技大会等へ選手・役員を派遣（障害6・馬場1・総合5）し競技力向上に努めるとともに、海外の情報収集を図り、併せて国際交流・親善を深めた。

※主な派遣大会

- ・ CSI05\* Rome（イタリア）
  - ・ CDI3\*/CDI5\* Compiègne（フランス）
  - ・ CCI4\* Marbach（ドイツ）
  - ・ CSI05\* / CDIO5\*/CCI04\*-S Aachen（ドイツ）
- (2) 2022年 CSI-W ワールドカップファイナルの出場権を得た北井一彰選手及び次点の高田潤選手とも同大会に参加しなかったため馬輸送補助は行わなかった。
  - (3) 海外の FEI 公認競技会に参加する日本選手（障害13名・馬場8名・総合8名）を支援した。エンデュランスは令和3年度 FEI 競技会への派遣は無かった。

## 7. 東京2020大会の準備

- (1) 東京2020大会の NTO（ナショナル・テクニカル・オフィシャル）として、日本からリザーブも含め22名が東京2020組織委員会から指名され、執務した。なお、ITO（インターナショナル・テクニカル・オフィシャル）に日本から2名が FEI から指名され、執務した。さらに、東京2020組織委員会に日馬連から1名を出向させ、組織委員会の大会運営に貢献した。

- (2) 競技力強化のため、以下の施策を行った。

- ① 強化体制の整備として、昨年度に引き続きドイツ（障害）及びフランス（総合）に設置した JEF 海外トレーニング拠点2か所を運用した（馬場は設置せず）。また、ジェネラルマネージャー、シニアマネージャー等の海外コーチングチームを設置した。
- ② 海外競技活動支援としてナショナルチームメンバー21名（障害12名・馬場5名・総合4名）に活動補助費を交付した。
- ③ 優良競技馬による競技活動支援を目的に障害9頭、総合6頭を障害及び総合のナショナルチームメンバーに引き続き貸与した。また、総合馬術の育成選手（根岸淳）への支援として訓練馬3頭を引き続きローラン・ブスケ厩舎で繋養した。

④ 国際競技大会へ選手を派遣、競技力強化に努めた。

(3) 前項の施策の結果、東京2020大会では以下の成績を収めることができた。

- ① 障害馬術は、団体戦では3人馬が出場したが決勝に進むことができなかった。個人戦では福島大輔選手が6位入賞、齋藤功貴選手は13位、佐藤英賢選手は25位だった。
- ② 馬場馬術は、団体戦では3人馬が出場、14位となった。個人戦では北原広之選手が45位、林伸伍選手が48位、佐渡一毅選手が56位だった。
- ③ 総合馬術は、団体戦では交代を含め4人馬が出場、11位となった。個人戦では戸本一真選手が4位入賞、田中利幸選手が34位となった。



(資料4) 会員と乗馬の登録 (2 関連)

(1) 令和3年度会員登録数

区 分	R3. 3. 31 (A)	入会	退会	R4. 3. 31 (B)	差引増減 (△減)	対前年比 (B/A)
① 正会員	55	0	0	55	0	100.00
イ. 都道府県馬術連盟	47	0	0	47	0	100.00
ロ. 組成団体	4	0	0	4	0	100.00
ハ. 学識経験者	4	0	0	4	0	100.00
② 登録会員	6,651	606	498	6,759	108	101.62
イ. 個人	6,011	570	482	6,099	88	101.46
ロ. 県馬連に所属する団体	387	23	8	402	15	103.88
ハ. 組成団体に所属する団体	253	13	8	258	5	101.98
全日本学生馬術連盟	78	2	0	80	2	102.56
全日本高等学校馬術連盟	83	10	3	90	7	108.43
日本乗馬少年団連盟	58	0	2	56	△ 2	96.55
日本社会人団体馬術連盟	34	1	3	32	△ 2	94.12
③ 賛助会員	2	0	0	2	0	100.00

(2) 令和3年度乗馬登録数

区 分	R3. 3. 31 (A)	登録	抹消	R4. 3. 31 (B)	差引増減 (△減)	対前年比 (B/A)
乗馬登録数	3,822	525	504	3,843	21	100.55

(3) 令和3年度FEI登録数

区 分	選手	馬匹	トレーナー
障害馬術	61	39	
馬場馬術	16	11	
総合馬術	30	74	
エンデュランス	1	0	0
軽乗	0	0	
パラ馬術	12	9	
レイニング	0	0	
合 計	120	133	0

(4) 令和3年度FEIパスポート登録数

FEIパスポート (リログインョンカードを含む) 交付・更新・変更数

新規交付	9
更 新	19
所有者変更	17
馬名変更	3
再発行	1

(うちマイクロチップ埋込み 0件)